白河の冥奇

第　８１　号
令和６年７月３１日
発行人：支部長　栗林正樹
※題字：白川仁一先生
※印刷：さとう総合印刷

「 人生これから 」

西白河支部長　栗林　正樹

私は今年78歳になります。これほど長生きできるとは思いませんでした。小さい頃は病弱で、101歳で亡くなった母は生前「大きくなれるだろうか？」と心配したと言っていました。小学3年頃までは町の山田医院の先生に何回も往診していただき、そして、中３からは胃潰瘍に苦しめられ長生きできないと思っていました。

退職校長会の大先輩方の米寿珍寿のお祝いにご自宅を訪問すると入院されている方もいましたが、多くの方はお元気でした。私は10年余88歳まで生きていられるか自信はありませんが、元気に迎えたいと願っています。

この前、私は家族の前で
「人生これから」と言ったら
「えっ、80歳近いのに『人生これから』よく言うよ。残された余生でしょ？」
「いいや、これからだよ。人生はいつも」
「そうだよね。120歳まで生きて曾孫の顔見るんだよね」
「まあなあ。それはむずかしいなあ」
「日本最高齢を目指しているつもりもないし、みんなに迷惑をかけて『もう逝ってもいいんじゃないの』と思われながらもしぶとく生きて行くつもりもないけど。でもなあ、長生きすることは迷惑かけるかな？」
などと話しました。

兎にも角にも「人生はこれからだ」いつも。もちろん、時に振り返りはして来ました。そして、人生は言うまでもないことですが、日記にでも書いておかないと忘れてしまう平凡な繰返しの毎日で、劇的な出来事はそうはありません。

毎日、新聞を3，4時間読んでは、日本はこのままでいいのだろうか、識者は何をしているのだろうか、と考えてしまいますが、どうすることもできない自分がいます。

また、数千万年後から1億数千万年後には地球のプレートに乗ってオーストラリア大陸が日本列島にぶつかって来るとか。太陽もいずれ何億年後かには燃え尽きるとか。だから、人類は地球から他の星へ移住することになるとか。科学の進歩に伴いそういうことが明らかになって来ているそうです。

遠い遠い未来ではあっても子孫達はそれらの障害を克服し、地球を逃れ宇宙のどこかで更なる繁栄を遂げているのだろうと思います。

それでも現在の私達の日常は平凡です。そして私は死のうとして人生に終わりを告げようとは、今は考えていないので前向きに生活し進んで行きたいと思います。『人生はこれから』です。そして体が動く内に、将来生き恥を晒すようなことのないよう、孫子が「何だろう、爺ちゃんはこんなゴミを取って置いたの？」などと言われないようにするためにも、身辺整理を少しずつ進めています。

「人生これから」それは誰にとっても、幾つになろうとそうだと思います。違いはそう考えるかどうかだけです。

私がそう考えるようになったのは、死ぬしかないという危機を脱したころから「生きるしかない」と考えました。その後も生と死の意味を考えて迷うこともありましたが、「死との和解」ができて、生きる確信が持てたころから「これからの人生」言葉を換えれば「人生これから」と、自分自身を励まして来ました。

特に70歳を過ぎてからは一層、あと数日でも数年でも数十年でも「人生これから」と考えて生きて行こうと思います。

『令和６年度第６０回支部総会』

今年６０回の節目を迎える支部総会が東京第一ホテル新白河で４７名の参加を得て盛大に開催されました。

議事に先立ち、昨年度白河市社会福祉事業功労者表彰を受けられた薄井幸太郎先生と小学校教育功労者に対する文部科学大臣表彰を受けられた菅野由信先生、新会員３名を紹介しごあいさつをいただきました。

今年度は喜寿に該当される方はありませんでした。珍寿と米寿のお祝いについては支部長、副支部長が誕生日を目安にお宅を訪問し贈呈します。

続いて、福島県教育庁県南教育事務所長橋本美弥子様、福島県市町村教育委員会連絡協議会西白河支会理事長芳賀祐司様、西白河小中学校長連合協議会長西牧泰彦様をご来賓にお迎えしごあいさつをいただきました。

総会議長は、慣例により、白河方部の穂積勝則評議員が務められました。

議事では、令和５年度事業報告と決算報告令和６年度事業計画と予算案について、また令和６年度より定年退職年齢が引き上げられるが管理職は役職定年となることに伴う会員資格改正、西白河支会創立６０周年記念事業等について協議され承認されました。

クラブの実践報告では、囲碁クラブとゴルフクラブより楽しい活動内容について説明がありました。

活動日については以下の通りです。

◎囲碁クラブ【毎月第二月曜日】

◎ゴルフクラブ、【１月を除く毎月第一火曜日】

また、退職校長会ではクラブの新設について奨励しており、支部長より希望がある場合には庶務の菊地好博先生に相談するよう呼びかけがありました。

『総会懇親会』

総会に引き続き、総会会場の隣の部屋に会場を移し４５名参加のもとコロナ禍で久しぶりとなった懇親会が開催されました。

福島俊男顧問による乾杯の発声で会がスタートすると、終始和やかな雰囲気の中で近況を報告し合ったり昔話に花を咲かせたりして懇親を深めることができました。日常が戻ってきた喜びに包まれたひとときでした。

『新会員の先生方から』

「感謝＆新しい一歩」

髙田　健一

皆様、こんにちは。髙田健一と申します。

このたび熱心に入会を勧めてくださる方々があり、縁あって皆様のお仲間に加えていただくことになりました。何とぞよろしくお願い申し上げます。

令和６年の３月に退職し、教員生活並びに校長としての生活が終わりました。今思えばあっという間の３８年間でした。

私は、昭和６１年、夢が叶い教師となり、石川郡、西白河郡、東白川郡、岩瀬郡そして、教育行政では、県南教育事務所、社会教育施設では、国立那須甲子少年自然の家（現那須甲子青少年自然の家）で仕事をしてきました。

そこで多くの人の教えや支えの中で、教員生活を勤めあげることができました。この間に出会った生徒、仲間、先輩、保護者、地域の方々・・・に深く感謝申し上げます。そして、家族に「ありがとう」を言いたいと思います。

退職後の現在、中学校において、様々な悩みをもつ子どもたちの支援に当たっております。校長職とは大きく違う新たなことへの挑戦と思い、毎日楽しく働いています。今までの経験を活かし、初心に戻って教育の一端を担っていければと思っています。

話は変わりますが、私が中学校教員を目指した第一の理由は、子どもたちにバスケットボールのすばらしさを感じてほしいと考えたからです。この点に関しては教員生活において「達成感、充実感」をもっています。しかし、教頭、校長という管理職の立場になってからは寂しさを感じていました。退職を迎えた今、ミニバスケットボールの大会や練習を見る機会に恵まれました。若かりし時を思い出し、少しずつなまった体を動かしていきたいと考えています。小学生、中学生のようにはいきませんが、教員を目指した原点に立ち戻り充実した人生を送りたいと思います。

今までの人生、有難き人生に感謝。

今後とも、ご厚誼のほど、何とぞよろしくお願い申し上げます。

「新たな時代に向かって」

室井　博人

今年度退職になり、今はほとんど下郷にある実家で、９１歳になる父の面倒を見ながら生活しています。そして、家の周りにある猫の額ほどの畑で作物を育てています。

４月から、耕耘機で畑を耕し、鍬で畝を作って、種をまいたり苗を植えたりしました。ほうれん草、ブロッコリー、ジャガイモ、トマト、にんじん、キュウリ、ナス、カボチャ、その他ズッキーニ、インゲン、夕顔、ヤーコン、スイカ等々一株から一畝まで父の教えを受けながら一緒に育てています。

下郷でも最近は色々な動物による被害が多く、その対策に追われています。ジャガイモは植えて芽が出た後、上から周りを網で囲って猿が入れないようにしています。カボチャなども毎年実が大きくなった頃に、猿がやってきて取られてしまうため、今年は父が苗を３０本くらい育て、色々なところに植えました。被害がでなければ売りに出せるくらいたくさんなるのではないかと今からいらぬ心配をしています。

ほとんどの野菜はまだ生長の段階ですが、ほうれん草やブロッコリーは比較的生長が早いので大きくなると食べることができます。ブロッコリーは一株から一つしか取れませんので効率の悪い野菜ですが、だいたい同じ時期に大きくなるので食べられる時期になると次々に取らなければなりません。時々来る妻も含めて三人ですからいくら一個しかできないブロッコリーといってもそんなに食べられるものではありません。順番に植えていけばいいと考えましたが、同じ日に植えても、芽が出る日にちも違いますし、育ち方も同じではありません。順番に植えたから順番に育つわけでもないのです。

野菜も人間と同じで、同じ野菜でも大きく育つものもあれば同じように水や肥料をやっても枯れてしまうものもあります。もちろん手をかけなければ育ちません。まさしく教育と同じです。水や肥料をやるだけでなく、良く観察して生長の様子を確認したり、周りの草を取ったりと手をかけなければ上手く育たないことを実感しています。

といってもまだ始まったばかりです。父に教わりながら大事に大きく育てられるようがんばっていきたいと思っています。

「荷を軽くし遠き道を行くが如し」

渡邉　泰昌

４月に、本会に入会させていただきました。今後ともよろしくお願い申し上げます。

現職を辞して早４ヶ月が過ぎようとしています。今、自分に言い聞かせていることは、「自分が興味を持ったことをやってみよう。そして、やりたいことをやってみよう。」ということです。いざ、４月から退職後の生活が始まると、１ヶ月目：病院通いに明け暮れた日々。２ヶ月目：実家の片付けや草むしりに疲れ果てた日々。３ヶ月目：家内の予定優先の日々。。。（笑笑）というようになかなか自分のやりたいことができるまでにたどり着きません。はたまた「自分がやりたいことって何だろう？」とまで考える始末です。

最近、やっと奮起して、休みの晴れた日に、一人で那須岳（茶臼岳）に登る計画を立て実行に移すことができました。この山域を選んだ理由は、学生時代に甲子山から那須岳まで縦走したことのある懐かしい場所だったからです。実際には、膝を痛めていることで、一歩一歩地面を確認しながらゆっくりと歩くことで精一杯。残念ながら頂上まで登ることはできませんでした。しかし、高山植物を写真に撮りながら、自分なりの山行を楽しむことができました。このことで、ますます健康が大切であることを実感しました。そして、ほんの少しの自分の楽しみを大切にしたことで充実した気持ちを得ることができたことが大きな収穫です。現職という重責がなくなった今、これからは、「荷を軽くし、遠き道を行くが如し」、少しずつできることを増やして進んでいこうと思います。

現在、白河市立東中学校において、不登校生徒を中心にした校内適応教室指導員（会計年度任用職員）として勤務しています。不登校の問題は、チームで対応しなければ、担任ひとりに重くのしかかってしまう仕事の一つです。私は、この問題を少しでも良い方向に進めるために、校長先生はじめ学年の先生方と協力していこうと思っています。

これからも本会の皆様方からご指導を賜りますようお願い申し上げます。

『福島県公立学校退職校長会二本松大会』

石川　政彦

創立６０周年記念となる二本松大会が、６月１２日、安達支部の主管のもと二本松御苑において、２２０名が一堂に会して開催されました。西白河地区から９名が参加しました。

開会式に引き続き、二本松が生んだ日本画の巨匠大山忠作氏の長女で女優の大山采子氏が、「生きることは描くこと、生きることは演じること」～大山忠作とわたし～という演題で講演を行いました。戦時中九死に一生を得て、帰国後は日本画の制作に命を懸けて取り組んだ父の姿や、自分が女優一色采子になった経緯、「顔施」をモットーとして生涯を演じる意味などを、表情豊かに話されました。大山忠作美術館では、成田山新勝寺所蔵の襖絵の特別企画展が１０月１日より開催予定で采子氏のギャラリートークもあります。

午後の体験発表では、石川支部の小針良仁先生が、石川町立歴史民俗資料館「イシニクル」について、耶麻支部の神田優子先生が、「人づくりの指針」への関わりを通しての取り組みについて、いわき支部の矢内金五先生が、富士山の見える阿武隈の山々について、それぞれ興味深い発表をしていただきました。

閉会式では、次期開催地会津４支部を代表して、齋藤秀一北会津支部長が、南会津町の御蔵入交流館で開催する旨を発表しました。

安達支部の皆様大会運営お疲れ様でした

《ご冥福をお祈り申し上げます》

村越　亮先生　令和６年４月２２日ご逝去

《編集後記》

西白河支部創立６０周年、還暦を迎え新たな気持ちで頑張っていきたいですね。広報係